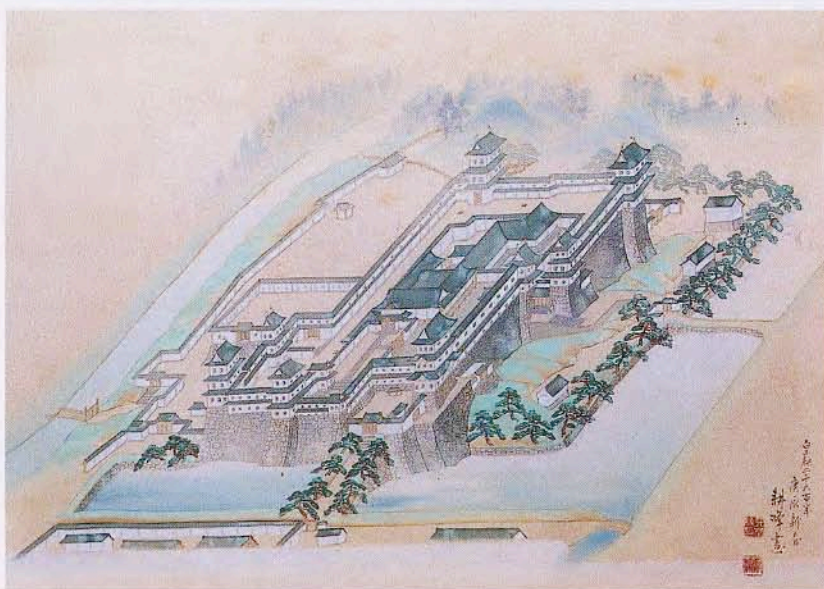


歴史散歩

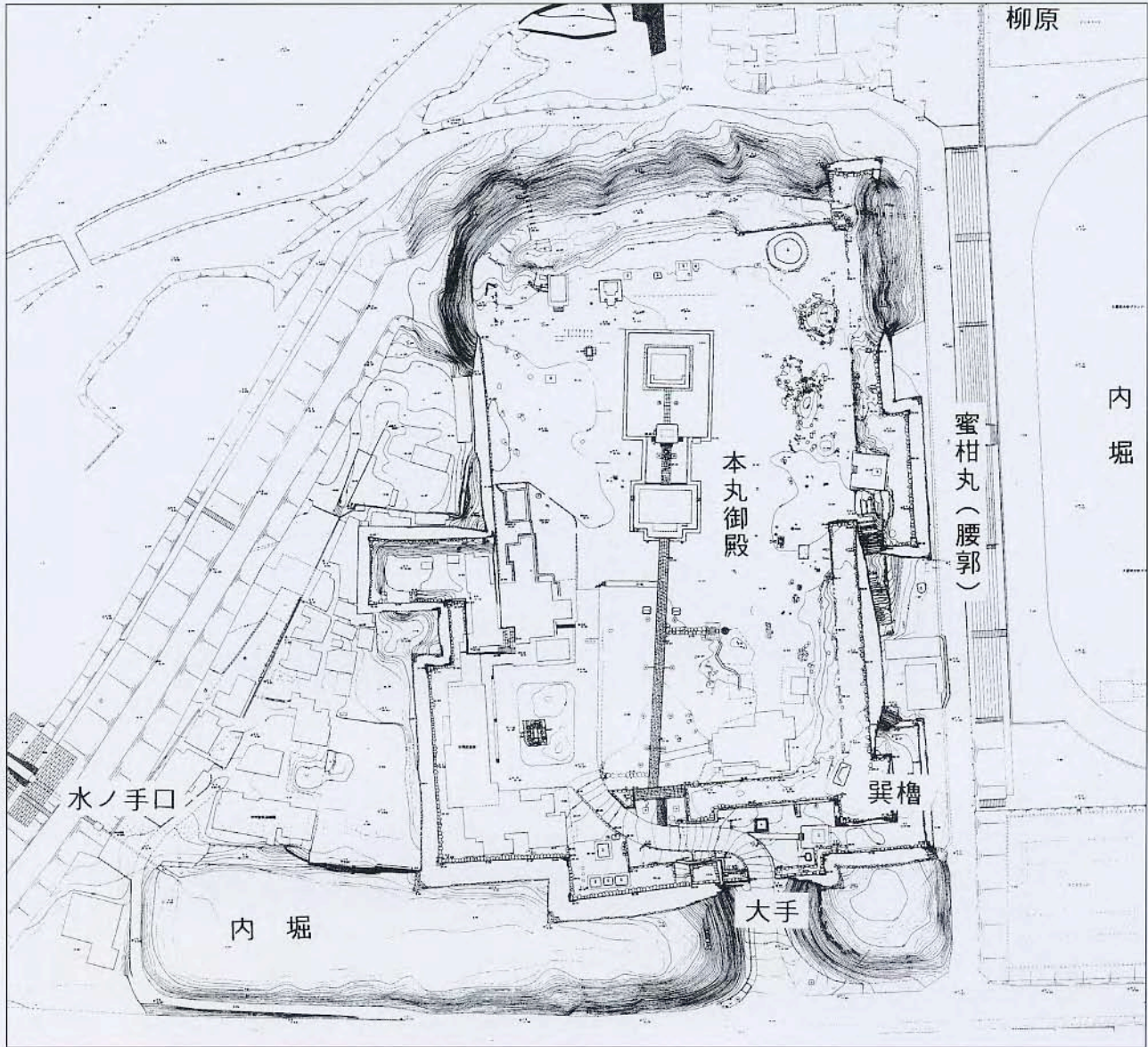
れきしさんぽ°No.12

久留米城跡



近代になって天野耕峰が描いた久留米城本丸

久留米城は江戸時代を通じて、筑後8郡を支配した有馬氏の居城でした。今は本丸を残すばかりですが、往時は周囲を7棟の櫓と二重の多聞(長屋状の建物)で囲んだ多門造の城(したがって天守閣が無い)で、内には御殿が広がっていました。明治4年に廃城となり、その後全ての建物が壊されてしまいましたが、明治12年には、藩主を祭神として篠山神社が創建されました。傍らには有馬氏に関する資料を展示する有馬記念館もあり歴史を偲ぶ、清閑な場所となっています。

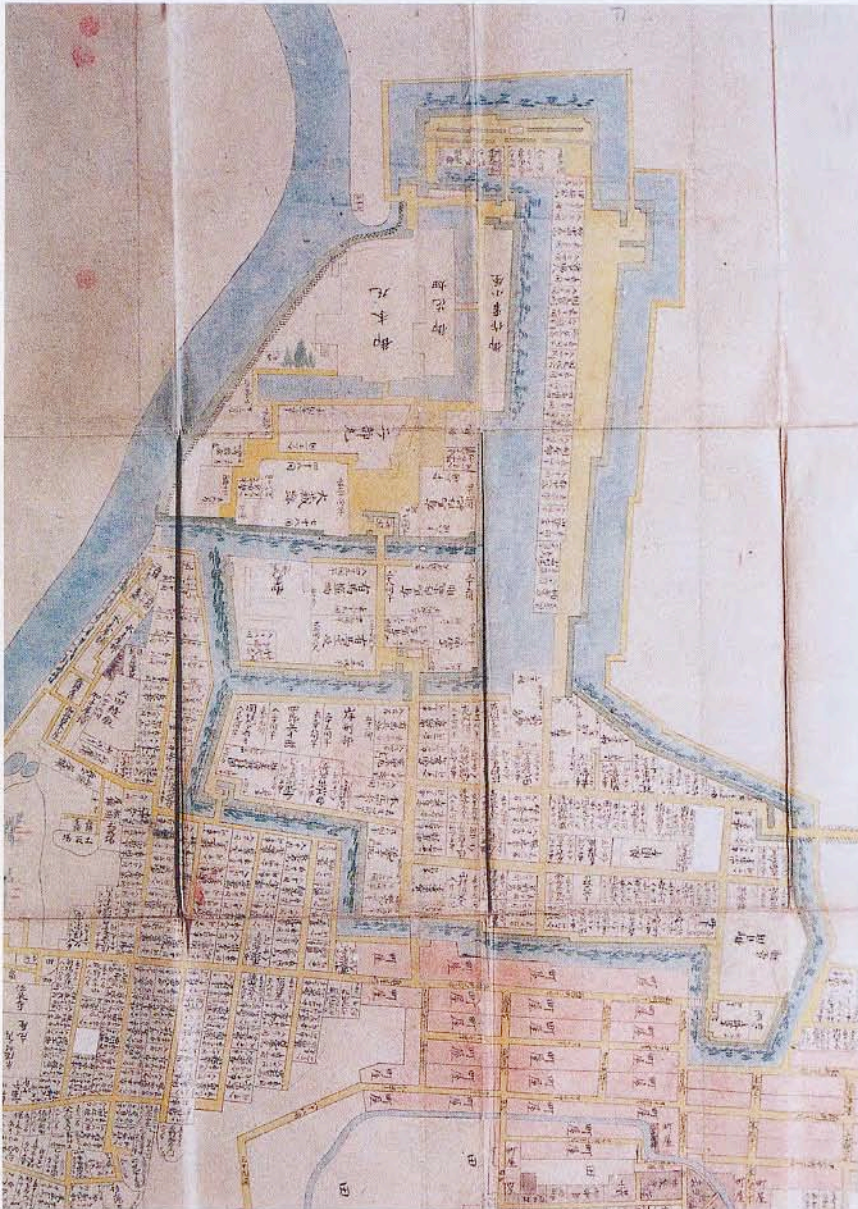


◆廃城前の久留米城

久留米城は明治5年に売却が決定し、8年には全ての建物が解体されます。その間の最後の西からの姿です。右に天守の役目を持った三層の巽櫓たつみやぐら、左に西南の隅櫓すえが見え、前面に内堀が広がっています。表紙の天野耕峰の絵と比べて見て下さい。

◆城郭の全体

初代藩主有馬豊氏が入国した元和7（1621）年には、久留米城は廃城同然だったといいます。早速修築が開始され、豊氏の代には城郭が拡大され、それまで東向きであった城の構えが南向きに変えられます。さらに、本丸周辺の堀や侍屋敷の建設が進められ、2代忠頼の代には外堀を中心に浚渫や修築が行われます。4代頼元の代にはさらに侍屋敷替えと拡大などが続きます。左の城下図は、延宝8年（1680）の物ですが、この頃には、その後を通じての久留米城と城下町の姿が整っています。



図の左上の方に、今も残る本丸が描かれています。その下（南）に、堀で区画された二の丸・三の丸が続ぎ、さらにその外側に外郭が広がっています。外郭の東南の隅が、現在の市役所・商工会議所がある辺りです。

久留米城の歴史は戦国時代に遡り、高良山の座主良寛の弟麟圭が拠ったとの記録も見えます。豊臣秀吉の時代には、久留米周辺3万5千石程を領した小早川（毛利）秀包の居城となり、関ヶ原の戦いの後は柳川を主城とした田中吉政の支城ともなりました。

今私達が見る姿は有馬氏時代の本丸の部分だけとなっています。そもそもこの城は筑後川に面した小高い丘を利用した堅固な要害でした。有馬氏3代藩主頼利の時代まで整備拡張が続けられ、本来の城域は、東は現久留米大学の西半まで、南は商工会議所・市役所のあたりまで広がるものでした。この中に、堀で区画された二・三の丸、外郭が設けられ、家老を初めとする上級の家臣達の住まい、藩政上必要な役所などがありました。さらにその周囲は、下級の武士達の住まい、そして城下町が広がっていたのです。

さて、本丸の内部には御殿が設けられていました。そこは二の丸に設けられた御殿と共に、大名である有馬家の日常の住まいであり、同時に藩の政治の中心となった場所なのです。登城の日には麻上下で正装した藩士達が入りし、藩主の国入りなどの大きなお祝いの日には、藩内の庄屋や主だった商人なども招かれて「御能拝見」が催されたりもしました。

◆本丸跡を散策する

本丸跡には篠山神社・有馬記念館のほかに、歌碑や記念碑などがあります。その内のいくつかを紹介します。

西海忠士之碑

大手枡形を抜けた隅櫓すみやぐらの跡に立つ、まず最初に目に付く記念碑です。明治維新の際に勤皇のために尽くした人達を偲び、称えるものです。碑文は初代市長であった内藤新吾。

小河真文先生碑・水野正名碑

幕末・明治維新の久留米勤皇派の中樞であった人で、水野は版籍奉還後に久留米藩大参事となり、新政権を担いました。しかし、明治4年、久留米藩の反政府活動の罪を受けました。

この一角には他に、戊辰役従軍記念碑・真木保臣らの贈位記念碑等が立ち並び、久留米にとっての明治維新を記念する区画となっています。

篠山神社本殿の左手から裏側にかけて、また、数基の記念碑が立ち並んでいます。

津田一伝流遂退先生之碑

津田一左衛門・号遂退（1821～1872）は、久留米藩の剣道師範役で、自らの剣論を立て、新しく「津田一伝流」を開きました。藩外からの門人も多く、碑は明治36年、門人達による建立です。

井上鶴代碑

藩の儒学者井上鴨脚を父に1832年に出生。母近子の影響もあり、9才で作歌を始めたという歌人です。碑文は和歌山の歌人・剣客であった海上胤平で、建立は門人であった大藪たき子です。

また、隣には明治の文筆家であり、漢詩を良くしたことでも著名な宮崎来城の詩碑があります。

大伴部博麻碑

博麻は齊明天皇の時の朝鮮白村江の戦いで、唐・新羅軍に捕虜になった人物で、仲間を日本に返す為に奴隷となり、その後帰国したといわれます。今のハ女郡出身と伝えます。

側の道君首名碑とは、奈良時代の優れた筑後国の国司を称える記念碑です。

小早川神社

篠山神社社殿向かって右の、大木に守られるようにする石祠です。豊臣秀吉の時代に、近世の初めての大名として久留米を領した小早川秀包をまつると伝えます。



西海忠士之碑



井上鶴代碑



小早川神社

発行機関名 久留米市教育委員会

☎830-8520 久留米市城南町15-3

文化財保護課 0942-30-9225

久留米市埋蔵文化財センター 0942-34-4995

久留米文化財収蔵館 0942-38-6194